

## 第2節 人形土製品について

### 1. 人形土製品出土遺跡

前述したように人形土製品の出土を見た遺跡は比較的少ない。「古代の祭祀と信仰」(国立歴史民俗博物館研究報告第7集)より抜すいし、若干の資料を加えた人形土製品出土遺跡地名表を別表に示した。亀井正道氏によると、これに数遺跡が加わるが、いずれも採集品のようなものである。全体としても残念ながら採集品あるいは偶発的な発見が多い。<sup>(1)</sup>

出土地を概観すると関東地方で6例、東海地方(静岡・三重)で11例、近畿地方で6例、中国地方で4例、九州地方で10例を数える。(亀井氏によると他に近畿2例、中国2例、九州5例がある)。東海地方と九州地方が多いことが目につく。このうちまとまった資料としては埼玉県今泉遺跡、静岡県中津坂上遺跡、三重県草山遺跡、大阪府奈良井遺跡、鳥取県谷畑遺跡、広島県宇山遺跡、大分県浜遺跡等があげられる。このうち奈良井遺跡を除き、他の遺跡は人形土製品だけでなく、鏡・玉類・円板等それぞれ構成要素は違うものの他の土製品を伴っている。特に坂上遺跡では武器・紡織具・農耕具・什器類等種類は豊富である。また動物形土製品も注目され、浜遺跡を除き出土している。動物形土製品は坂上遺跡は犬とされ、草山遺跡でも犬としたものが1点出土している。また奈良井遺跡では鶏であるという。さらに今泉遺跡では牛のようなものがあり、宇山遺跡では馬形が1点出土しているという。さらにこれらの遺跡の地形に注目すると、亀井氏が指摘しているように台地状あるいは峠状地形をしたところに多い。今泉遺跡・坂上遺跡・宇山遺跡がこれにあたり、土製品の種類等似ている点が多く、亀井氏は『肥前国風土記』などに見える道の神・境の神などの荒神への献供品である可能性を指摘している。また上記の例ではないが鹿児島県伊佐郡の三遺跡(大迫・岡野・津栗野)も平野をみおろす丘陵部の斜面に位置し、火葬墓の副葬品と考えられるが、荒神祭祀がおこなわれた可能性も指摘されている。この他では草山遺跡は周囲に円墳2基と方形周溝墓14基がならぶ丘陵尾根沿にある方形台状遺構と命名された遺構内の北東部にその大半が出土した。特殊な遺構での出土で他の例とは異なるが、付近に古墳を有すること・丘陵尾根沿に位置すること等、先にあげた諸遺跡との共通点もみられる。奈良井遺跡は生駒山地から派生する丘陵上に位置する。一辺約40m、最大肩幅約5m、深さ1~1.5mのU字形の溝状遺構=方形周溝遺構が検出され、土師器・須恵器とともに土製模造品(人形・鶏形等)が出土している。やはり丘陵上であり東方には円墳2基が存在するようで草山遺跡とは共通点を有す。これら2遺跡はその特異な出土状況もさることながら、土製品に伴出する土器から年代を確認しえたことの意義は特に大きい。草山遺跡で伴出した須恵器甕は5世紀末~6世紀初頭で、奈良井遺跡は5世紀後半~6世紀中頃と考えられている。このことは同様に土製模造品を多量に出土した土器の伴出のない他の遺跡(今泉遺跡・坂上遺跡等)の年代を考える上で重要である(向坂氏は坂上遺跡の年代を6世紀前半としている)。大分県浜遺跡は別府湾に面する砂丘遺跡で南側に低丘陵があり、古墳群が存在するという。偶発的な発見で出土状況の詳細は明確でないが、人形のほか、円板・土製品・手づくね土器等が出土している。海人系の<sup>(2)</sup><sup>(3)</sup><sup>(4)</sup><sup>(5)</sup><sup>(6)</sup><sup>(7)</sup><sup>(8)</sup><sup>(9)</sup><sup>(10)</sup>

集団につらなる人々の遺跡とされ、他の遺跡とは異なった性格を有しているようである。

さて、これまでふれた種々の模造品を含む遺跡<sup>(11)</sup>以外にも特徴的な遺跡がある。堅穴住居跡出土例としては千葉県北の台遺跡5号住居址、東京都多摩ニュータウンNo.855遺跡1号住居址、同No.144遺跡1号住居址があげられる。北の台遺跡<sup>(12)</sup>では周辺の床面に土馬3点、人形1点が、No.855遺跡<sup>(13)</sup>ではカマド内に人面形土製品2点と紡錘車状土製品・有孔円板状土製品が出土しているという。いずれも平安時代であり、住居跡のカマド近くという共通点もあり興味深い。

古窯跡からの出土も多く静岡県で4例、三重県・岡山県・福岡県でそれぞれ1例認められる。1～2点の単独出土で須恵質のものがほとんどであり、年代的には三重県例・岡山県例を除き奈良時代である。

出土地が多い九州では火葬墓に伴う例が多く、先述した鹿児島県伊佐郡の遺跡群のほか、熊本県蚕業試験場遺跡でも蔵骨器様の土器に土馬・土製人形が伴っており興味深い。年代は奈良～平安時代という。このほか、古墳出土例もあるが追葬も考えられ土馬資料とともに論義が分かれるところである。

以上概観したように人形土製品が他の土製模造品を多く伴い出土する遺跡は峠状・台地状あるいは丘陵上に存在する例が多く、この中には5世紀後半～6世紀と考えられる遺跡がある。また、奈良時代以降では住居跡・古窯跡・火葬墓等地域により特徴的な遺構から出土している。このようにして考えていくと、本遺跡のように低地の旧河道から大量に出土した例はなく、他の土製模造品も丸玉・鏡などごく少数あるものの人形・馬形にくらべ極端に少なく、人形土製品が大量出土した他の遺跡とは性格を異にしていると考えられる。

## 2. 構成要素

人形土製品に伴う祭祀関係遺物の構成要素であるが、本遺跡のものは残念ながらその全てが旧河道から出土しており他の遺跡のように、そのセット関係を明確には把握できない。ここでは“まとまり”としてとらえたものについてその状況を述べるが大きな河道内の遺物であり共伴関係を認定することはできない。

56点と最も多数を出土した宮川6区S R 312は動物形土製品も66点出土している。他に馬形木製品3点・舟形木製品1点・刀形木製品かと考えられるもの3点・斎串状の木製品5点が出土している。玉類では勾玉7点・石製丸玉33点・土製丸玉5点・管玉2点があり、他に耳環3点、石製紡錘車2点・鈴1点なども出土している。人形土製品・動物形土製品の点数が似通っていることは注目されるが、伴出土器に大きな幅があり、他の遺物も含めて一括とは考えにくい。

宮川6区S D 322は旧河道の中州状の地形にある溝状遺構で、人形土製品3点と動物形土製品6点が出土し、他の祭祀遺物はみられない。また水上7区S X 802は人形土製品のみが集中しており、同遺構の北9mの同一面で馬形土製品と土師器群が出土している。同じ水上7区旧大谷川の人形土製品(第89図25)と動物形土製品(第94図67)は同一地点で出土し、付近に他の遺物はみられなかった。これらのことは人形土製品と動物形土製品がセットで使用された可能性を示しているが、旧河道内の限定区域のことであり、可能性があるという程度にすぎない。他の人形土製品は旧河道内の単品出土に近く、他の遺物との関係を論じることは不可能である。

## 3. まとめ

以上みてきたように本遺跡出土の人形土製品を全国の出土例を参考にその出土地・遺構・祭祀関係遺物の構成要素などを比較し考えてきたが、その特異な出土状況のみを際立たせる結果となり次の問題が残された。

- (1) 多数を出土する遺跡には峠状・台地状あるいは丘陵上に存在するものが多く、本遺跡のように低地の旧河道からの大量出土は他に例がない。人形土製品を用いる祭祀の様相に一石を投じたことになるが、その様相を窺い知るような出土状況ではないので河川＝水と人形土製品の関係の解明は今後の課題となる。
- (2) 人形土製品を用いる祭祀の構成要素は他遺跡のように明確には把握できない。動物形土製品が共に使用された可能性があるが断定できない。旧河道の大きな範囲では馬形・舟形などの木製模造品、勾玉・丸玉・管玉などの玉類などがあるが、他遺跡には例がなく、全てが一括とは考えにくい。
- (3) 本遺跡の人形土製品は数形態に分類できるが、伴出土器に大きな幅があり年代は限定できない。中には他の遺跡出土のものに類似するものがあるが本遺跡独自のものも多い。

大きな問題が未解決のまま残されたが、本遺跡出土の状況はこれらに答えられるようなものではない。仮に人形土製品が動物形（馬形）土製品とともに旧大谷川に投げられたものであるとすれば、亀井正道氏や水野正好氏が指摘しているように『肥前国風土記』の佐嘉郡の条にみえる道祖神・境神などの荒神<sup>(14)</sup>を和める祭祀の状況を本遺跡は示しているように思えるが、浅学ゆえに検証する力を持ち合わせていない。ここでは問題提起だけにとどめ、今後さらに明確な資料の増加と諸氏の研究成果に期待したい。

- (1) 亀井正道「浜松市坂上遺跡の土製模造品」『国立歴史民俗博物館研究報告』第7集 1985
- (2) 向均鋼二「浜松市都田町中津・坂上出土の祭祀遺物」『考古学雑誌』第50巻1号 1964
- (3) 松阪市教育委員会『草山遺跡発掘調査月報No.6』 1983
- (4) 四条畷市教育委員会『奈良井遺跡現地説明会』 1979
- (5) 椋山林繼「関東」『神道考古学講座』第二巻 1972
- (6) (1)に同じ
- (7) 新東晃一「南九州における人形・馬形土製品の祭祀形態」『古代文化』第30巻、第2号 1978
- (8) (3)に同じ
- (9) (4)に同じ
- (10) 向坂前掲書によるが、亀井正道氏は「建銚山―福島県表郷村古代祭祀遺跡の研究―」において6世紀後半としている。
- (11) 大分県教育委員会『浜遺跡』大分県文化財調査報告第48輯 1980
- (12) 千葉県企業庁『北の台遺跡』千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 1974
- (13) 財東京都埋蔵文化財センター「多摩ニュータウンNo.855遺跡」『多摩ニュータウン遺跡―昭和55年度―』 1981
- (14) 水野正好「馬・馬・馬―その語りの考古学」『文化財学報』第二集 1983

人形土製品出土遺跡地名表

番号	遺跡名	都府県	時代	共 伴 遺 跡	点数	備 考	文 献
1	今泉遺跡	埼 玉	古墳	石製模造品 (有孔円板・勾玉・剣・臼王・鏡 等) 動物形土製品 手づくね土製模造品(棒状具)	人形 20点 以上	A	文化財保護委員会 『埋蔵文化財要覧』2 1959
2	北の台遺跡	千 葉	平安	土馬3点・土師器	人形 1点	B (堅穴 住居)	「北の台遺跡」 『千葉ニュータウン埋蔵文化財 報告書』Ⅲ 1975
3	大道遺跡	千 葉		採集品 (同遺跡内に古墳～平安の 住居址あり)	人形 1点	H	(財) 千葉文化財センター 『千葉市大道遺跡 生実城跡発掘調査報告書』1983
4	館山市 東長田谷	千 葉	古墳 終末 期	土製模造品(円板・勾玉・丸玉) 手づくね土器・土師器・須恵器	人形 1点	A (麓の 祭祀)	椛山林繼「関東」 『神道考古学講座』第二巻 1962
5	多摩ニュー タウン No.855 遺跡	東 京	平安	土製模造品 (紡錘車状・有孔円板状・土玉状) 100点 手づくね土器	人形 2点	B (掘込み)	東京文化財センター 「No.855 遺跡」 『多摩ニュータウン遺跡― 昭和55年度』第4分冊 1981
6	多摩ニュー タウン No.144 遺跡	東 京	平安	土製模造品(円板・玉状・スタン プ形・棒状・管状) 手づくね土器	人形 1点	B (カマド状 の掘込み)	東京文化財センター 「No.144 遺跡」 『多摩ニュータウン遺跡― 昭和56年度』第1分冊 1982
7	郡遺跡	静 岡		土馬・石製模造品(勾玉)土製品 各1点	人形 1点	H	磯部武男「藤枝市内出土の祭祀遺物 について」『駿豆考古』12 1972
8	助宗古窯 跡群	静 岡	8・ 9 C	須恵器	人形 2点	C (須恵質)	
9	南原3号 窯跡	静 岡	奈良 前期	須恵器・瓦・土錘	人形 1点	C (須恵質) 灰原出土	島田市教委『南原瓦窯跡』 1981
10	清ヶ谷 古窯跡	静 岡	奈良		人形 1点	C (須恵質)	袋井市役所『袋井市史』 通史編 1983
11	水ヶ谷 奥窯跡	静 岡	奈良	土馬(須恵質)	人形 1点	C	大須賀町教委 『清ヶ谷古窯跡群白山窯跡 ―1978の調査―』 1979
12	坂尻遺跡	静 岡	奈良	斎串・須恵器(坏) 土師器(坏・皿・甕)	人形 1点	D (須恵質)	袋井市教委 『一般国道袋井バイパス埋蔵文化財 発掘調査概報』 1981
13	中津坂上 遺跡	静 岡	6 C 前	土製犬形 土製模造品(武具・機織具) 手づくね土器			向坂綱二 「浜松市都田町中津・坂上出土の 祭祀遺物」 『考古学雑誌』第50巻1号 1964 亀井正道 「浜松市坂上遺跡の土製模造品」 『国立歴史民俗博物館研究報告』 第7集 1985

番号	遺跡名	都府県	時代	共 伴 遺 物	点数	備 考	文 献
14	阿弥陀堂 遺跡	静 岡	奈良 平安	土馬6点(土師質)・土師器 須恵器・鉄器・砥石	人形 4点	C (平窯)	樋口清之「静岡県浜松市阿弥陀遺跡」 『日本考古学年報』5 1957
15	藤谷埴輪 古窯	三 重	古墳 後	埴輪・須恵器	人形 1点	C	村上安生「三重県形象埴輪出土地」 『形象埴輪の出土状況』 第17回埋蔵文化財研究会資料 1985
16	草山遺跡	三 重	古墳 (5C)	有孔円板(1) 土製品(犬・鏡・玉ほか) 手づくね土器	人形 28点	A	松阪市教育委員会 『草山遺跡発掘調査月報』 No.6、No.10 1983
17	小中遺跡	滋 賀	古墳		人形 2点		
18	市三宅東 遺跡	滋 賀	弥生 (?)		人形 1点		
19	長岡宮 (111次)	京 都	平安 (8C 末)	須恵器・土師器・宝珠硯・緑釉皿 帯金具・漆器片	人形 1点	G (包含層)	「長岡宮遺跡第111次(7AN 11D地区)」 『向日市埋蔵文化財調査報告書』 第8集 1982
20	奈良井遺跡	大 阪	5C 後半 ～6 C中	鶏形土製品・馬骨・馬歯・須恵器 滑石製白玉・男根状木製品 手づくね土器・底板等の木製品	人形 12点	A D	四條綴市教育委員会 「奈良井遺跡現地説明会」 1979 大阪市立博物館 「動物の考古学」 1987
21	河高上ノ池 遺跡	兵 庫	古墳 中期	土製模造品(勾玉・鏡) 手づくね土器	人形 6点		
22	塚穴山古墳	奈 良		土馬(1)	人形 3点	E	「天理塚穴山古墳調査概要」 『昭和40年度日本考古学協会 研究発表要旨』1965
23	谷畑遺跡	鳥 取	古墳 後期	有孔円板(1)・土製品(イノシシ1・ 動物形4)・土製模造品(円板1) 手づくね土器(18)・須恵器 土師器・カマド	人形 1点	A (集落)	倉吉市教育委員会 『四天王寺地域遺跡群遺跡詳細分布 調査報告書』1982
24	須恵窯跡	岡 山		土馬(1)		C (須恵質)	大場磐雄「上代馬形遺物再考」 1970
25	宇山祭祀跡	広 島	古墳 後期	動物形土製品・土製模造品(円板・ 勾玉・丸玉・管玉・棒状土製品・ 有溝棒状土製品・柄杓・短甲・有 溝板)・手づくね土器(鉢10・埴1)	人形 2点	A	是光吉基 「広島県世羅出土の祭祀遺物」 『考古学ジャーナル』5号 1969
26	細田遺跡	広 島	弥生 後期	弥生土器	人形 1点	G 包含層	『広島県安佐郡佐東町細田遺跡 細迫遺跡調査概報』1968
27	丸ヶ谷遺跡	福 岡	奈良	須恵器		C (古窯跡)	
28	太郎丸遺跡	福 岡	古墳 後期	土製品(犬)・土製模造品(勾玉) 手づくね 各1点	人形 1点		大場磐雄『祭祀遺蹟』 1970
29	御床遺跡	福 岡	古墳 後期		人形 8点	G (包含層)	小田富士雄 「九州」 『神道考古学講座』2 1967

番号	遺跡名	都府県	時代	共 伴 遺 物	点数	備 考	文 献
30	大塚古墳	福 岡	古墳 後期	土製品（板状）1	人形 7点	E （古墳 墳丘中）	「春日市下白水大塚古墳出土品」 『山陽新幹線関係埋蔵文化財調査 報告』第5集 1979
31	千原台遺跡	熊 本	平安 か	須恵器・土師器を入れ子式にし、 その中に納入	人形 1点	G （包含層）	熊本市教育委員会 「千原台遺跡」『熊本市西山区文化 財調査報告書』1969
32	蚕業試験場 遺跡	熊 本	奈良 ～ 平安	土馬4・須恵蔵骨器	人形 8点	E	小田富士雄「古代形代馬考」 『史淵』第105・106合輯 1971 大場磐雄『祭祀遺蹟』 1970
33	浜遺跡	大 分	古墳 後期 か	土製模造品（円板6・突起付円板 4・土製玉1） 手づくね土器	人形 7点	F （土抔？）	大分県教育委員会「浜遺跡」 『大分県文化財調査報告』第48輯 1980
34	牧野遺跡	鹿 児 島	奈良 平安	土馬		A （祭祀跡）	志布志町『志布志町誌』 1972
35	大迫遺跡	鹿 児 島	平安	墨書土器（坏形土器） 土師器（壺・甕・坏）	人形 3点	E （火葬墓）	新東晃一「南九州における人形・馬 形土製品の祭祀形態」 『古代文化』第30巻 第2号 1987
36	岡野遺跡	鹿 児 島	奈良	土馬10・土製模造品（円板）10 土師器（甌のみ）	人形 10点	E	“
37	津栗野遺跡	鹿 児 島	奈良	土馬1・須恵器	人形 1点	E （火葬墓）	“
38	塞の神遺跡	鹿 児 島	奈良	土馬（多数）・須恵器	人形 多数	E （火葬墓）	木村幹夫 寺師見國「鹿児島県伊佐 郡の古墳」 『考古学雑誌』第26巻 第6号 1936

※ A—祭祀跡・B—住居跡・C—古窯・D—溝・E—古墳・火葬墓・F—土抔・G—包含層・H—採集